

第3回南牧村小中学校建設検討委員会 議事録

議 事 日 程

令和7年2月27日（木曜日）午後 7時00分開会

1 開 会

2 あいさつ

3 討 議

①中学生「総合的な学習の時間」の発表【テーマ：学校統合について】

②義務教育学校について

③学校の形態について（グループ討議）

4 その他

（振り返りカード記入）

5 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席者（34名）

会長 中嶋光久

委員 吉澤忠彦 委員 高見澤真紀 委員 菊池丈彦 委員 井出けさお

委員 小川武紀 委員 岡村聡 委員 小池心吾 委員 井出淳一 委員 奥石剛

委員 大村茜 委員 津金武幸 委員 高見澤眞 委員 吉澤政紀

委員 吉澤登見恵 委員 横森渚 委員 吉澤康代 委員 前田英敬

委員 井出良律 委員 小池孝 委員 菊池実 委員 吉澤克次

委員 渡辺忠一郎 委員 金沢貴徳 委員 高見澤幸史 委員 菊池佑亮

委員 横森康幸 委員 河合ゆう 委員 菊池静香 委員 上村弘幸

委員 成瀬豊 委員 高見澤みち子 委員 大笥理良 委員 井出さとみ

オブザーバー

議会議長 吉澤均 議会社会文教委員長 井出邦彦

事務局職員出席者

教育委員会 教育長 今井力 次長 津金義秀 指導主事 渡邊元子

主事 宮下真依

総務課 課長 津金初男 課長補佐 廣田啓一

開会 午後 7時00分

◎開会の宣告

○津金教育次長 こんばんは。

皆様、お疲れさまです。

ただいまから第3回南牧村小中学校建設検討委員会を開会します。

本日の委員会を傍聴される方にお伝えいたします。

傍聴される方は意見を述べることはできません。委員会の録画、録音もできませんので
承知おきください。

◎あいさつ

○津金教育次長 それでは、中嶋会長から挨拶をお願いいたします。

○中嶋会長 皆さん、こんばんは。

間もなく3月ということで、年度末のお忙しいときにお集まりいただきましてありがとうございます。
ございます。

今日は、私の仕事の中でお話をした場面をちょっと1つ紹介させていただきたいと思いま
す。

お話しした方は、昭和22年生まれの現在78歳の野辺山のお住まいの方とお話ししました。
今から50年ほど前のお話になります。ちょうど私が小学校低学年のときのお話です。

私は市場地区ですので、学校は北小のほうへ歩いて山道を下りながら、海ノ口の国道沿い
を歩いて、約1時間ぐらいかけて北小学校に通っていました。ちょっと低学年だったので、
当時を思い起こすと、コンクリート製の校門に入って、右側に木造づくりの小学校がありま

した。そして左側には、木造で造られたやはり中学校が当時残っていました。校門を入るとすぐ砂のグラウンドがあり、その奥には体育館が1つあり、もうちょっと奥には多分小学、中学共有のトイレがあり、なんていうような私、低学年の頃の学校を思い出していて、その78歳の方とそんなお話をしていたら、私も中学の時にそういえば野辺山からJRで通ったよとか、グラウンドとか体育館は小学校と共有しながら、先生方が話をしながら使っていたなんていうようなお話とか、先生もちょっとグラウンドが狭くて使いづらいなんていうような当時のことをお話いただきました。当時は、1クラス30人で3クラスあったというように、それこそ1学年80人から90人ぐらいいらっしやった、そんな時代だったというように、ことだったそうです。

その後、私がやはり徒歩通学で歩いているので、海ノ口の国道沿いを歩いていると、学校からの帰り道、今の中学校のところ、そこに数年後、私、3年生か4年生頃だったと思うんですけれども、中学校が建設されたというように、ことを思い出しました。その当時は本当に子供も多くて、教室とか体育館、グラウンド、いろいろが賄い切れない状況で、小中分かれて建設されたんだというふうに思います。

私は知りませんが、もっと古くからは、それこそ各地区に尋常小学校ということで、広瀬地区だとか平沢地区だとか板野分校だとかということで各学校があったということは聞いております。

あれから50年近くたった今、状況が大分変わって、児童数も減っている。それから社会状況も変わり、パソコンなどの情報社会から人口知能、AIの時代に移り変わりが見えてきている中、南牧の子育ての在り方とか、学校教育の在り方、また望ましい学校の形について、今、私たちが大局を見極めて進めていくこととなっております。皆様のご協力をいただきながらよりよい学校づくりに進めてまいりたいと思い、昔の様子の一場面をこの場をお借りして紹介させていただきました。

またよろしくお願いします。終わります。

○今井教育長 ありがとうございます。

◎討議

○今井教育長 討議に移らせていただきます。

この後の進行を中嶋会長にお願いいたします。

○中嶋会長 よろしくお願いします。

それでは、3. 討議に入ります。

① としまして、中学生総合的な学習の時間の発表についてです。

先日、私も紹介させていただきましたが、今日は南牧中学校1年生の●●さんと●●さんのお2人に、総合学習の時間で学校統合についてをテーマにして意見発表していただきました。今日はそのお話を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

では、初めに、●●さん、よろしくお願いします。

○中学生 こんにちは。南牧中学校1年●●です。よろしくお願いします。

私は、南牧村の学校統合について探求を進めてきました。学校が統合するという話を聞き、興味を持ち、子供たちの意見を大切にしたい小中一貫校づくりをテーマに調べてきました。

初めに、2時間総合で教育委員会に行き、直接教育長の今井力さんとお話しさせていただきました。村がどのような学校にしたいのか聞きました。4つあります。

1つ目は、子供たちの様々な要望や動きに対応できる教室、スペースを重視した学校、2つ目は、子供たちが様々な人たちと関わり合いができる学校、3つ目は、子供たちが校舎からぬくもりや癒しを感じられる学校、4つ目は、特別支援教育へ配慮した学校です。

私は、村は子供たちのことをよく考えているんだなと思いました。詳しく言うと、今までにない新しい形の学校です。大きく分けて3つのエリアをつくりたいと考えているそうです。専用エリアは、生徒が使う場所です。いろいろな学年と関わるができます。共有エリアは、村民の方も使うことができるエリアです。開放エリアは、村民の方が自由に利用することができます。世代を超えての交流の場にもなります。

私は、このような学校が南牧村にできたら素敵だなと思いました。皆さんはどうですか。詳しくは、「みんなのみなみまき10月号」の12、13、14ページに載っているので、ぜひ見てみてください。

次に、設立の場所です。

村では3つの案が出ているそうです。1つ目は中学校の裏山、2つ目は北小の前、3つ目は南小の後ろの畑のところですが、3つともよい点、悪い点があります。例えば小海分院までにかかる時間、緊急時のことを考えると、中学校の裏山か北小の前がいいと思います。しかしハザードマップで見ると、中学校の裏山、北小の前は、特別警戒区域に入っています。なので、自然災害がほぼないと想定されている南小の後ろがいいと思います。なのでもっと考え、設立の場所は決めたほうがよいと思いました。

そして、次に廃校舎活用法についてです。教育長は、村民が使えるような場所にできたら

よいなと考えているそうです。私もそう思いました。道の駅やカフェなどになれば、観光客が増えることにもつながると思いました。

そして、1日総合では、長野県佐久穂町佐久穂小中学校に行ってきました。まず、校舎見学をしました。階段や蛇口が低い、廊下が広くて明るい、ベンチなどが廊下にある、透明のドアが多い、トイレがきれい、どこも明るい、時計が多い、靴箱の高さが学年ごと違うなど、南中に比べてたくさんの違いがありました。私は半日過ごし、小学生にも中学生にも過ごしやすい造りだなと感じました。

休み時間見学もさせていただきました。廊下のベンチのところで話している人、校庭で小学生と中学生が一緒に鬼ごっこをしているなど、小学生と中学生が一緒になっているところがとても印象的でした。

そして、インタビューとアンケートをさせていただきました。中学生と一緒にやってみたいこと、1位、スポーツ、2位、運動会、3位、音楽会です。中学生と小学生が一緒でよかったと思うこと、中学校の先生に授業を教えてもらえる、兄弟同士の物の貸し借りができる、中学生のかっこいい姿が見える、中学へ上がる不安が減るなどでした。

インタビュー、アンケート結果を見て、私は、小学生は中学生へ憧れを持ち、挑戦したいという思いがあり、中学生は、小学生の憧れで責任感ができるのかなと思いました。逆にプレッシャーになってしまう子もいるということも分かりました。

次に、まとめです。

村は、子供たちのことを考え、学校統合について進めている。設立の場所をもっと考える必要がある。廃校になった学校は、地域の方たちが使えるような場所にしていきたい。小学生と中学生が一緒になると、よいこともあるが、逆に不安に思ってしまう子もいる。私が疑問に思ったことは、小学生も中学生も使いやすい学校って何だろうということと、子供にとって一番いい学校って何だろうということです。

最後に、これからもっと追及していきたいことがあります。1つ目は、村民の意見を聞くことです。今回は、村民の意見を聞くことができなかったなので聞きたいです。2つ目は設立の場所です。どこが一番いい場所なのか考えたいです。3つ目は、廃校舎活用法についてです。使わなくなった学校をどうしていくのかも考えたいです。最後にお金の問題です。お金が結構かかることなので、一番いい方法を考えたいです。

これで終わりにします。最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

○中嶋会長 ●●さん、ありがとうございました。

では、続きまして、●●さん、よろしくお願いします。

○中学生　こんばんは。南牧中学校 1 年●●です。

私は、小中学校統合について調べるために、1 日総合の日に佐久穂小中一貫学校へ行きました。見学内容は、各学年の授業見学、校舎内の見学などです。

佐久穂小中学校の特徴は、校舎自体は同じだけれども、左右で小学校と中学校に分かれていること、理科室や保健室、職員室は小・中共用のこと、小学 1 年生から小学 6 年生までと、小学 7 年生から小学 9 年生までであること、体育館や校庭は小・中で分かれていること、共用の廊下や下駄箱があることで、日常から交流が多いことなどです。

佐久穂小中学校見学の写真はこちらです。ご覧ください。

次に、校長先生との対談会の質問内容と回答を紹介します。

スクールバスや小中学校での時間の統一はどうしていますか。回答、スクールバスがたくさんある。下校時は小学生が先に下校し、部活終了後に中学生が下校するそうです。

小学生と中学生が交流できるような行事や授業はありますか。回答、中学生が小学生への読み聞かせや、小・中挨拶運動、合同の避難訓練などたくさん行っているそうです。ほかに、小学生が中学生の文化祭や展示品見学をするそうです。

教員の人数はどのような配分ですか。回答、小学校各学年、各クラスごと担任 1 名、中学校各学年、各クラスごと担任 1 名、教科ごとに先生がいるようになっているそうです。

建設費用は、南牧中学校 7 億円に対して、佐久穂小中一貫学校は、約 58 億円だそうです。

次に、5、6 年生に回答してもらったアンケートを紹介します。アンケート内容は、小学生と中学生が一緒に行っている活動はありますか。皆さんが中学生と一緒にしてみたいことはありますか。校舎内に小学生と中学生が一緒に使っている教室はありますかです。アンケート対象者は、佐久穂小学校 5 年 1 組、2 組、3 組、6 年 1 組、2 組、3 組の皆さんです。

アンケート結果は次のようになりました。スクリーンをご覧ください。

こちらは一番回答が多かったものからになります。

一番回答が多かった乗り入れ授業をしてもらえるということに関しては、小学校から中学校へ上がる際の教科担任制になるお試しのようなものになっていて、生徒からは、小学校とは全然違うだったり、少し難しいなどの意見が上がりました。

2 番目に多かったものからの回答は、小学校と中学校が同じだからその交流や、兄弟同士などといったワードが多かったように思います。

小学校統合の課題と留意点についてや以下の資料は、平成 29 年度 10 月の新しい南牧村小

中学校の建設に向けての保護者説明会資料に記載されているものになります。詳しくはスクリーンをご覧ください。

3校共通のよい点と悪い点や、新たな学校舎の建設です。

教員の数や生徒の数が減ってきているため、小・中学校統合はよい考えだと思います。ですが、一番の問題は、小・中学校統合の建設予定地だと思います。まず、各学校のメリット、デメリットを上げました。こちらのよい点、悪い点は似たり寄ったりですが、建設予定地として設定されている場所には、賛否両論あると思います。そして、どの場所も大規模な工事をしなければいけません。土地の買収には結構な金額もかかると思います。建設費用や土地の買収金額なども合わせると大出費になりますが、これは3つの予定地に共通して言えることだと思います。建設予定地の簡易な例ですが、例えば南小側に学校を建設したとします。そうすると、北小側の一番遠い海尻の生徒は、バスで通学するにも20分かかります。山間部の場合も大変だと思います。一方、北小側に建設すると、平沢からバスで通学するには30分ほどかかります。バスの出発時間を逆算して考えると、とても早くなることが分かります。

このように建設予定地に対しての意見は様々で、決定するのにとても時間がかかると思います。ですが、最初に場所を決めておくと、効率がよく、早く決められると思います。通学時には、バスの数を増やすことや、時間の統一、学校の建設場所など、村民の皆さんが納得するようなよい統合になればいいなと思います。私も村民の一人として、この小・中学校統合のよりよい方法について考えて行ければいいなと思います。

これで発表を終わりにします。ご清聴ありがとうございました。

○中嶋会長 ●●さん、ありがとうございました。

お2人の本当にそれぞれ見学に行ったり聞き取りに行ったりアンケートをしたりということで、本当に廃校活用だとか通学時間だとか建設の費用の問題、幅広いところの考察というか、とてもすばらしかったと思います。本当に貴重な意見を聞くことができました。ありがとうございました。お2人に盛大な拍手を送っていただきたいと思います。

ありがとうございました。ここで中学生のお2人はお帰りになられます。本当にありがとうございました。

それでは、討議の②になります。義務教育学校についてであります。

事務局のほうから説明のほう、お願いいたします。

○渡邊指導主事 皆さん、こんばんは。指導主事をしております渡邊です。

③に移る前に、義務教育学校を事務局としては考えていますが、そのメリット、デメリッ

トについてまとめましたので、簡単にご紹介をしたいと思います。

まず、義務教育学校ですが、先ほども中学生が言ってくれましたが、1年生から9年生までの9年間一貫した教育をする学校になります。校長先生は1人、職員も小学校・中学校分かれなくて一緒にになります。そういう学校になります。

表を見ながらお願いします。

まず、学校運営ですが、メリットとしては、各教科探求学習が、系統的・継続的、1年生から9年生まで継続した学習指導ができる。それから、先生方もより小さい子から中学生まで見るので、先生方の力も向上する。それから、学年の区切りも小学校6年、中学校3年というような、それにこだわらず、4年、3年、2年、4、3、2年生や、5、4制など、子供の発達段階に応じた区切りで運営することができます。

デメリットについては、原則小学校免許と中学校免許の両方が先生方には必要になります。それから、大規模校の場合は校長1人では円滑な学校運営は困難ですが、南牧の場合は小規模校なので、この点については1人の校長先生が学校運営をしっかりやっていただいたほうがいいのかなと思っています。

それから、小学校と中学校では授業時間、それから登校時間が違うので、ここを工夫する必要があります。

それから、6歳と15歳という年齢差があるので、縦割りの活動には工夫が必要です。

次に学習ですけれども、メリットは、教科内や教科ごとの学習内容を意識した学習指導が容易にできます。それから、学習の順序や内容を入れ替えることもできます。先取りや後戻りが可能になります。

それから、小学校教員による高学年への教科担任制、佐久穂小中でもやっていましたが、乗り入れとありますが、中学校の先生が小学校で教えることも可能ですし、小学校の先生が中学校で教えることも可能になります。

デメリットとしては、教科の内容を入れ替えたり、先取り、後戻りをすると、転校生があった場合は、ちょっと配慮が必要になります。

それから、児童・生徒ですけれども、メリットは、中1ギャップの緩和になります。中1ギャップというのは、小学校と中学校の教え方の違いとか、先生方の指導の違いとか、環境の違いなどで子供たちがちょっと戸惑うことを中1ギャップといいます。それが一緒にいることで緩和されるということです。

それから、9年間通した学習の規律、生活規律の定着、同じ圃場でできます。

それから異学年の交流による精神的な成長、お手本になる中学生を見ながら過ごせること、それは小学生にとっては大きな教育効果だと考えます。

あと、特別支援教育においては、9年間の連続した指導や支援が可能となります。

デメリットは、小学校の卒業時の達成感や、中学の入学のときの期待感が少ない。これは後ほど説明をします。あと、小1と中3では年齢差があり、小さい子供が中学生を見て萎縮してしまう。それから思春期・反抗期の生徒の姿に接することによる低学年への悪影響、9年間同じ顔ぶれで人間関係が固定化される。あとリーダーシップを養う機会の減少、これは小学校6年生がリーダーシップを発揮する場面が少なくなるということです。

その他として、複数の小・中学校が1つに整理されることで、地域の学びの拠点が失われてしまう、このようなデメリットもあります。

それから、義務教育になったら、入学式や卒業式、部活動などはどうなるのだろうかということなどについてもちょっとご説明をします。

1年生から9年生までずっと続くので、小学校の入学式、それから中学校の卒業式は行いますが、6年生の卒業式や中学1年生の入学式などは、義務教育学校ではないということです。でも、その対応策として、成長の節目を大切にすることを行事として行う、例えば4年生のときには2分の1成人式、それから中1だと7年生では立志式などを行っているところもあります。それから、卒業式や入学式は、子供にとってはとても必要なステップとなります。こういうことはきちんと残して中学校の進学という大きな節目に当たって学校行事を工夫するなど、子供が心機一転できるような機会を大切に考えていきたいと多くの義務教育学校では工夫しながら行っているところがたくさんあります。特に小学校6年生は卒業式はないと先ほど言いましたが、修了式ということで卒業式に代わる式をやっている学校も多くあります。

それから、次のまわっていただいたところに秋田版エデュコという読み物がありますけれども、小中一貫教育、特に義務教育学校に移行した学校の1年目の大変さとか、2年目、3年目、子供たちや保護者、それから地域の方がどのように変わっていったかというのが分かりやすく書いてありましたのでご紹介させていただきます。これについては、またお時間のあるときに読んでいただければと思います。

以上です。

○中嶋会長 渡邊さん、ありがとうございました。

ただいま義務教育学校についてご説明ありましたが、何かご意見、ご質問等ございますで

しょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、討議③の学校の形態についてということであります。

まず最初に、学校の形態について、今井教育長さんよりご説明お願いしたいかと思います。

○今井教育長 皆様、お疲れさまです。

私から、皆様のお手元にお配りしてございます学校の形態というA3サイズのものを皆さんにご討議いただきたいと思います。

さきに皆さんには事前に資料はお配りしてございますが、念のためご説明いたします。

縦軸に（１）現状とあります。これは、現在の３校のことを指しています。そして、２番目に小学校のみの統合、そして中学校はそのままのものです。３番目の小・中学校統合という欄もございます。これについて、教育の質、通学、地域とのつながりという点でメリット、デメリットをこちら教育委員会で作成してございます。皆様には、これからグループ討議の中で事前にお配りしてございますので、このデメリットですとかメリットで落ちているものがあれば付け加えていただきたいと思いますし、このデメリットを解消するにはどういうことが考えられるのか、グループで話し合っていただきたいと思います。話し合った後、また前回のようにより発表していただきたいと思います。

その後、今度は今日、一番右側に５段階評価とあります。教育的効果、経済的効果、地域の価値を上げる効果ということで、一番下にありますが、５段階の評価ということで評価していただきたいと思います。５が非常に効果が高い、４番が効果が高い、３番が一定の効果がある、２番が効果が低い、１番が効果が見込めない、またはマイナスの効果だということで、それぞれに評価をしていただきます。この評価をしたところで、最終的にこの一番点数の高いものにＡ評価、次の点数の高いものにＢ評価、そして次の最低の数字のところにはＣ評価ということで記載して、本日の討議のほうはひとまず終えていただくということでお願いいたします。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

これからグループワークをしていただくわけですが、今回もコーディネーターの方を中心に進めていただきますが、ご質問等、今の中であればですが、よろしいでしょうか。

なければ、また時間20分取りたいと思います。各コーディネーターの皆さんを中心に意見交換をしていただきたいと思います。この時計で7時50分まででグループワークを進めてい

ただきたいと思います。

それでは、コーディネーターの皆さん、よろしくお願いいたします。

(グループ別に意見交換)

○中嶋会長 よろしいでしょうか。まだお話しされているグループもありそうですが、ここで終了したいと思います。

それでは、各グループのコーディネーターの皆さんには、出た意見を発表していただきたいと思います。

書いてある意見はなしで、新しく出た、そこに書いていない皆さんから出た意見を出していただきたいと思います。

前のグループで出た意見も割愛していただいて、新しい意見を述べていっていただきたいというふうに思います。

それでは、すみません、まずAグループのほうからお願いします。

○委員 Aグループです。よろしくお願いします。

Aグループでは、教育の質の現状のところ、子供が少ないところで児童数を増やす、移住対策をする、また、複式学級というところのよい部分を何か考えてみたりするのも一手なのではないかという意見が出ました。

また、小学校のみの統合の場合の教育の質のところ、現状の運動会や音楽会の継続が困難というところはむしろメリットなのではないか、人数が増えるということなので、小学校のみ統合の場合でも、それはデメリットではないのではないかという意見が出ました。

また、中学校は村費教員が多いということも、川上村との兼務の先生がいらっしゃるということですが、それも兼務することで両方の小学校を見る先生がいるということで、むしろ子供たちにとっては視野の広がった先生がいるということでメリットなんじゃないかという意見もありました。

あと、小中学校統合の場合の教育の質では、デメリットの解消法として、人間関係が9年間固定化しやすいというところは、学年間での交流を図ることで、少し固定化ということが解消できるのではないかということ、あと、成長発達の部分でリーダーシップや自主性を養う機会が減るというところでは、6年生が児童会長になれないという形ではなくて、何らかの形で6年生もリーダーシップを取る、そういった組織にすることができるのではないかという意見がありました。

通学に関しては、現状のところはそのままですけれども、小学校のみ統合、また小・中学

校統合の両方の場合に共通して、いずれにせよ長い時間乗る子供たちが出てくるということなので、ボランティアなりの方が、特に低学年のとき、添乗してくださる方を用意する、またはトイレ付きのバス、低学年の子たちが安心して乗れるように、親も安心して載せることができるためにトイレ付きのバスを、そしてまた、停留所も現状のようではなくてもう少し増やして、かといって全く歩かない家の目の前に来るということではなく、適度なところにつくったらいいいのではないかという意見が出ました。

そして最後に、地域とのつながりというところでは、今ふだん、私たちはPTAという言葉を使っていますが、そこに地域とのコミュニティーを加味して、PTCAという言葉があるか分かりませんが、地域の人たちにもそういったところに入ってもらって共有することで交流できるのではないかという意見が出ました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

続きまして、Bグループ、お願いします。

○委員 Bグループでは、4点出ました。

まず、地域ぐるみで統合に向かっていってもらいたいというのが1点。あと、子供たちの目線に合わせた学校をつくってもらいたいというのが2点です。3点目が、中学生の発表を聞いて、すごくこのあれよりもよっぽどよく分かりやすかったという、そういう指摘を受けました。あと最後に、もう子供がいらないんだから場所はどこでもいいから早く決めてもらいたいという意見が一番多かったです。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

続いて、Cグループお願いします。

○委員 Cグループお願いします。

Cグループでは、(3)小・中学校統合についてのデメリットに関わっての話し合いが中心でした。その中で9年間固定化というところなんですけれども、それでも現状よりもいいんじゃないかということと、あと、魅力のある学校をつくっていけば、外から来るんじゃないかというような前向きな意見も出ました。

また、9年間でメリハリがないというところに関わっては、建物の工夫によって、今年は2階に行けるとか、右側の校舎に行けるとか、そういうことも子供たちにとっては効果があるんじゃないかというご意見です。

それから、通学に関わっては、中型でもいいのでやはり本数を増やしてほしい、小・中学校、今別々なんですけれども、一緒に行けば親も安心して行けるかなというご意見がありました。

それから、地域とのつながりというところで、自分の地域、周りに学校がなくなってしまう寂しさはとても分かるんだけど、逆に学校へ足を向いてほしいという願いも込めて、例えばさっきのバスを巡回バスのような形で地域の方も日中本数を出して学校を経由してもらうとか、そういうふうにして地域の方も学校に来やすい、そういったことをしていけばいいのかなというような、そんな意見が出ました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、Dグループをお願いします。

○委員 お願いします。

Dグループでもいろいろな意見が出ましたが、それぞれのところのメリットとデメリットは表裏一体なことで、それぞれのところで工夫次第ではメリットになったりデメリットが改善されたりということはあるんだろうなという意見がありました。

その中で、教育の質として中1ギャップが緩和されるという、小・中統合した場合、そういうことがあるんじゃないかと、実際それが本当に減るのかどうかというのはなかなか分からないところなんですけれども、現状と統合した後の比較でまた分かるところかなと、佐久穂の小・中学校に関しても中1ギャップは軽減されているかなと思うんですが、それ以前の状態とまた比べてみないと分からないところかなというようなご意見もありました。

それから、小・中統合した場合、小学生の成長する機会というのが、そういう場が確保できるかというところもあるんですけれども、中学生のほうが小学生のほうから児童というものから生徒に変わるという、成長の場という意識をしっかりと持つということがなかなか難しいところもあるんじゃないかということがあります。中1ギャップよりも今心配なのは、高1ギャップといいますか高1クライシスということらしいですけれども、高校へ行ってからのギャップに対応できるような、そういったものがあるかどうかというところをまた考えていきたいなというご意見がありました。

あと、小・中学校のほうが統合した場合、給食の調理室とかも一緒になったらアレルギー対応とか、そういった丁寧な、子供に寄り添った給食というのも提供できるんじゃないかというご意見もありました。

通学等に関しては、今も通学で時間がかかったりということがあるんですけども、遠いからその学校に行きたくないとかそういうことではなくて、距離よりもその学校の魅力がとても大事だなということで、魅力ある学校というものについてしっかり考えていかなければいけないというご意見も出ました。

そんなところですよ。以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

最後にEグループ、お願いします。

○委員 それでは、Eグループになります。

初めに、人数も他グループよりはちょっと少ない中で、●●さんにも少しこの前視察した様子なども交えて様子をお聞きしたりしながら進めました。

学校の形態が3つあるということで、現状と小学校のみの統合と小・中学校の統合ということで始めましたが、現状のところでは、小学生では5人で過ごしている学級もあるものですから、今後、現状を続けていくとなりますと、複式学級ということも検討できればという意見もありました。

小学校のみの統合というのは、そんなに大きな違いはないかなというところで小・中統合のほうにも傾いていきました。

それでデメリットもいろいろありますが、それもメリットへ変えていくことがいろいろあると、例えば小1と中3では差があり、交流に課題という見方もありますが、小学生が中学生の姿を見たり、中学生が小学生と関わるという利点、メリットもあるという見方です。

そして、本グループでは、ここにはない教職員、先生方にとっての働きやすいというものも盛り込んでみてはどうかということで、たくさん好意的なご意見というか、私も質問をいただきました。先生方にとってもどういったスタイルがいいのか、そして先生方がやりたいことができるだとか、先生方の元気がそのまま子供にもつながるという、そういう温かい視点、温かいというか、教員側にとってなんですけれども、ただ、子供にとってどうなのかということをお大切にしたいということで、そこにつながる考え、見方を大事にしたいということに至っております。

以上でございます。

○中嶋会長 ありがとうございます。

それでは、今、テーマなかなか難しい面もあったかと思うんですが、それぞれのグループからいろんな意見を伺うことができました。今聞いた意見、それからご自身のメリット、

デメリットと勘案いただきまして、今の資料の右側、5段階評価というところに、ご自身なりの評価をつけていただきたいと思います。5段階評価の目安ということで、このA3の紙の左下に色がついて5、4、3、2、1ということで書いてございます。なかなか難しい面もあるかと思うんですが、なるべく数字はご自身なりに考えて、空欄にすることなくつけていただきたいと思います。

まず、ちょっとそちらのほうを3分程度でつけていただきたいと思いますよろしいでしょうか。

今お配りしたA3紙の右側です。右の欄の右から2番目のところです。教育的効果、経済的効果、地域の価値を上げる効果、それぞれ現状と小学校のみの統合、それから小・中学校統合です。9マスあるんですが、こちらのほうにご自身のイメージというか、ご自身の評価でつけていただきたいと思います。

ちょっと3分くらいでお願いしたいかと思いますが。

(評価記入)

○中嶋会長 どうでしょうか、大丈夫そうでしょうか。

そうしましたら、今、得点がついていると思うんですが、それぞれのところで合計を出していただいて、合計点の高い順からA、B、Cという形で入れていただきたいと思います。

それぞれ現状、小学校のみ、小・中学校統合、それぞれで点を足していただいて、得点の高いところからA、B、Cということで書いていただきたいと思います。

それから、今書いていただいた紙は、お帰りの際にちょっと提出していただくようになります。右の上にお名前をご記入していただきたいと思います。

それから、お手元のほうに第3回振り返りカードということでA4の用紙があるかと思います。こちらのほうも今日の感想とか話し合いたいこととか、ご意見などありましたらということで、こちらのほうも四、五分でまとめていただきたいと思います。

(振り返りカード記入)

○中嶋会長 すみません、まだ書いておられる方おりますが、そろそろ終わりにしたいと思います。

全体を通して何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上の討議が終了しましたので、進行を事務局のほうへお返しします。ありがとうございました。

◎その他

○津金教育次長 それでは、教育長より一言あります。

○今井教育長 皆さん、大変お疲れさまでございました。

私から1点おわび申し上げたいことがございます。第1回目のこの委員会で、委員の皆様の名簿をお配りしてございます。この名簿には、委員の皆様方のご住所が記載されておりました。この住所の記載につきまして、個人情報の点からすると記載すべきでなかったなというふうに現時点で思っております。資料が足りず記載してしまいまして、皆様にはいろいろご心労ですとかご心配をおかけしたことをこの場を持ちましておわび申し上げたいと思います。大変申し訳ございませんでした。今後ともよろしくお願いいたします。

○津金教育次長 本日出していただいた委員の皆さんの意見をまとめて第4回委員までに送付したいと考えています。

それで、次回は3月21日金曜日、午後7時から、ここ同じ場所ですが野辺山集落センターで第4回建設検討委員会を開催する予定です。

それで、学校の形態の用紙、振り返りカードは出口の箱に入れてください。また、名札も出口でお返してください。

皆様の書いていただいた学校の形態は後日返送いたします。

繰り返しになりますが、右上のほうにお名前を書いて提出してください。

それから、本日傍聴に見えられた皆様、今回もまた関心を持ってお集まりいただきましてありがとうございます。今後、傍聴人の皆様のご意見を聞く機会も設けたいと考えております。よろしくお願いいたします。

◎閉会の宣告

○津金教育次長 それでは、以上で第3回南牧村小中学校建設検討委員会を閉会いたします。

皆様、お疲れさまでした。

閉会 午後 8時36分